



第11回 長崎大学病院 ICLSコース報告書



長崎大学病院は、救急医療教育の一環として、全研修医の日本救急医学会認定『ICLSアシスタントインストラクター』資格取得を目指しております！

平成28年6月11日(土)開催

共催：長崎シミュレーション教育研究会
長崎大学病院 外来・救急医療教育室
シミュレーションセンター
協力：日本光電九州株式会社

コースの目的

本コースは、初期研修医の救命医療における知識と技術の向上を目的として開催した。

ICLSとは

日本救急医学会が主催、または「コース認定」をして行う、医療従事者のための蘇生トレーニングコースです。心臓血管系の緊急病態のうち、特に「突然の心停止に対する最初の10分間の対応と適切なチーム蘇生」を習得することを目標とした、実技実習を中心としたコースです。受講者は少人数のグループに分かれて実際に即したシミュレーション実習を繰り返し、約1日をかけて蘇生のために必要な技術や蘇生現場でのチーム医療を身につけます。身につける行動の目標は以下の通りです。

- 蘇生を始める必要性を判断でき、行動に移すことができる
- BLS(一次救命処置)に習熟する
- AED(自動体外式除細動器)を安全に操作できる
- 心停止時の4つの心電図波形を診断できる
- 除細動の適応を判断できる
- 電気ショックを安全かつ確実にこなうことができる
- 状況と自分の技能に応じた気道管理法を選択し実施できる
- 気道が確実に確保できているかどうかを判断できる
- 状況に応じて適切な薬剤を適切な方法で投与できる
- 治療可能な心停止の原因を知り、原因検索を行動にできる

実施結果

受講生18名が当コースを修了し、ICLSアシスタントインストラクターの資格を得た。

また、スタッフ(コースディレクター1名、インストラクター7名、アシスタントインストラクター5名)計13名で指導を行い、3ブースを問題なく運営した。

※スタッフ詳細はP.4

<実施内容>

開催日時	平成28年6月11日(土)9:20~17:00
受講者数	18名
対 象	初期研修医15名、歯科医師3名
場 所	長崎大学病院 シミュレーションセンター、

<スケジュール>

		グループ(1)	グループ(2)	グループ(3)
09:00~09:20	0:20	受 付		
09:20~09:30	0:10	オリエンテーション		
09:30~10:20	0:50	BLS+AED	モニター	気道管理
10:20~10:30	0:10	休憩・移動		
10:30~11:20	0:50	気道管理	BLS+AED	モニター
11:20~11:30	0:10	休憩・移動		
11:30~12:20	0:50	モニター	気道管理	BLS+AED
12:20~13:10	0:50	昼 食		
13:10~13:15	0:05	BLS・ALSデモンストレーション		
13:15~14:25	1:10	チーム蘇生 VF/VT	チーム蘇生 VF/VT	チーム蘇生 VF/VT
14:25~14:35	0:10	休憩・移動		
14:35~15:20	0:45	non VF/VT	non VF/VT	non VF/VT
15:20~15:35	0:15	休 憩		
15:35~16:35	1:00	メガコード	メガコード	メガコード
16:35~16:45	0:10	移動		
16:45~17:00	0:15	終了式・修了証授与式		

◆アンケート◆ 受講者の声

- ・受ける前よりは、動き方や判断の仕方が分かった。
- ・一目だけブレだが、実際にICLSを行う事で、緊急の場合でも少しでも力になれるように参加する勇気が持てました。
- ・いろいろなパターンで考えながら体を動かすことで、実際にその場面に出会った時に自分から動こうと思えるようになったと思う。
- ・シミュレーションですら、あせり等があるので、実際の現場では、難しいと思う。以前、BLSを取得したことがあるが、定期的に復習をしなければならぬと実感した。
- ・スタート時と比べて、少し落ち着いて行動できるようになったと思う。
- ・まだ実際の現場に接したことがなかったので、だいぶイメージがつかえました。
- ・最初にどう行動するべきか分かるようになった。
- ・最初の数分BLSしてみようかなと思えるようになりました。自信がつかえました。
- ・ICLSの流れをつかんで少しはパニックにならずに済むような気がします。
- ・ICLSはチームでやらなくてはならないという事を身に染みて、実感しました。病院でハリーコールがなった時にやることが少しわかった気がします。
- ・講習会を受けて、もし意識を失った方がいたら、率先して現場に行く自信が少しだけども出来た。
- ・救急チームの一員として、役割を果たせるように、継続したトレーニングが必要だと良くわかりました。
- ・シミュレーションを何度も繰り返すことで、現場の対応場面をイメージできた。あとは病態に合わせた検査・治療を仁族に出来るように知識を詰めて行きたい。
- ・最初は訳も分からず、すぐに頭が真っ白になってしまいましたが、だんだんと考えられるようになり、少し落ち着いて判断できるようになった。
- ・周囲をみて協力する必要性が分かった。声が出るように体が動くようになった。
- ・BLSをよりしっかり行えるようになった。除細動の適応と方法について学んだ。

◆アンケート◆ スタッフの声

1) 受講者の態度・意欲はどうだったか？

- ・皆さんとても積極的でした。熱心でした。5
- ・非常によかったと思います。3
- ・前向きな姿勢で良好でした。2
- ・意欲が伝わってきました。・一生懸命でした。

2) 予備知識(予習含む)はどうだったか？

- ・薬剤の種類や投与量等よく知っていて、予習ができていると思いました。
- ・個人差があったように思います。3
- ・みんな、予習されて望まれていたと思います。
- ・少し不十分と思いました。
- ・経験値もあると思われるが、個人差があったと思われる。
- ・やはり毎回の事麻酔・救急ローテーターとは差があるような気がします。
- ・思ったよりできていたと思います。
- ・BLSはよくできていた。気管挿管の予備知識がやや不足。

3) ディレクター、インストラクター、アシスタント、チューターの指導はどうだったか？

- ・知識もそうですが、フィードバックの仕方も適切でした。
- ・話し方に人を引き付ける努力をされていると感じました。
- ・周りに医師が多いので、レベルが高く感じた。
- ・積極的だった。参考になった。
- ・これからもお手本とさせていただきます。
- ・声掛けのタイミングなど良かった。
- ・優秀でした。
- ・とてもやりやすかった。・熱心でした。
- ・熱心なあまり、時間が押し気味だった。
- ・事務連絡など密に行って頂いた。
- ・積極的に説明して頂いた。良かった。
- ・救命士の方は、さすがプロだと思えるプレホスピタルの知識でした。
- ・知識が豊富で助けられた。

4) 今後について、ひとこと

- ・受講者のみなさんがどんどんできるようになるのがすごいです。自分も出来る限り参加して、勉強していきたいです。
- ・今後も参加したいです。よろしくお願い致します。2
- ・ぜひ、継続して頂きたいです。3

●改善点●

- ・タール便と気道異物があれば…。
- ・場所が変わったせいで、物品の不備があった。

準備する資機材(3ブース)

資機材名	必要数	備考
ハートシム、操作用PC	3	1台は予備
レサシアン	2	各ブースに2
バックバルブマスク	3	
AED	2	複数機種
気道管理トレーナー	2	
モニター付き除細動器	3	単相性 1 二相性 2
気道管理ボックス	3	各ブースに1箱ずつ
注射器10ml		
バイトブロック		
吸引チューブ		
エアウエイ		
経鼻エアウエイ		
聴診器		
ポケットマスク		
喉頭鏡(4.0)		
喉頭鏡柄		
チューブ固定具		
酸素マスク		
酸素カニュラ		
挿管チューブ		
スタイレット		
CO2チェッカー		
テープ		
点滴	3	各ブースに1つずつ
点滴スタンド	3	各ブースに1つずつ
ワゴン	3	
聴診器	3	持ってきてもらう
アルコール綿	多目	
ホワイトボード	3	
ホワイトボードマーカー4色	12	
ストップウォッチ	3	
メトロノーム	1	
延長コード	4	

長崎大学病院
医療教育開発センター
外来・救急医療教育室
シミュレーションセンター
〒852-8501
長崎市坂本1丁目7番1号
電話 (095) 819-7881
FAX (095) 819-7882